



かなであん

249-0002 逗子市山の根1-7-24

Tel : 046-871-1863 Fax : 046-872-3485

[http:// kanadean.net](http://kanadean.net)

mail: ryukeiji@kanadean.net

法灯継承

「つながる つたわる ささえる」

平成26年6月6日、龍溪寺奏庵のご本山であります、浄土真宗本願寺派のご門主が37年ぶりに代替わりし、第25代専如門主の法灯継承法要が厳修されました。

新しくご門主の座に就かれた光淳様は、高齢な方々の多い伝統仏教界トップの中で圧倒的に若い36歳、3歳になるご長男の育児も手伝われる父親でもあります。法政大学時代には、築地本願寺に開校されている東京仏教学院でも聴講され、一般の生徒さんと共に真摯に浄土真宗のみ教を学ばれ、私が担当する拙い講義も聴講下さいました。我々講師や共に学んでいる人たちとも気さくにお付き合いされておられたのがついこの間のようです。

それはまさに、親鸞聖人がお念仏の仲間を、「御同行御同朋」と敬意を込めてよばれていたお心そのままのお姿でした。そして、その東京仏教学院での経験が、「子を亡くされた方、病氣を持つ方など、いろんな人が教を学び、よりどころにされている姿に、私にしかできないことをしていこうと決めました」と、門主継承者としての自覚を

深めた理由のひとつに語っておられます。

退任された前門主は我々と同じ団塊の世代、新しい門主は我々の子供たちの世代です。これからの厳しい道のりを思う時、どこまでも親鸞聖人のみ教えに耳を傾けつつ、現代社会の苦悩を背負っていこうとすることご決意を温かく見守り、今までに増して念仏生活に勤めていかなければとの思いを強くするものです。

* * *

西本願寺の門主は、親鸞聖人の子孫にあたる大谷家によって世襲されていますが、これは単なる血統の継承ではありません。あくまで法灯（お念仏のみ教え）の継承、聖人の絶対他力のお念仏をよりどころとした生き方を伝えるためのものです。継承するのは法灯（み教え）であって、「つながる、つたわる、ささえる」の姿勢が貫かれています。

この「つながる」は、宗祖・先人・親から受け継いだみ教えを、次世代に伝え、念仏者を育てること、「つたわる」は、御同朋の社会をめざし、浄土真宗のみ教を伝えるとともに、報恩感謝の心を行動に表すこと、「ささえる」は、つながる、つたえる、が常に社会の動向やニーズに則した活動であり続けるという基本姿勢の確認です。

親鸞聖人のみ教えは、歴代の

ご門主のご化導と、お念仏をよりどころとして幾つもの時代を生きぬかれてきた先人のおかげで、絶えることなく受け継がれ至り届けられてきたのです。

* * *

【親鸞は、父母の孝養のためとて、一返にても念仏もうしたることいまだそうらわず。一切の有情はみなもって世々生々の父母兄弟なり。……】

親鸞聖人のお味わいが響く言葉です。

よく言われるように、両親のそれぞれに両親があり、またそれぞれの両親が……と計算してゆけば、たちまちに何千億万という先祖が、私の命に注がれていることがわかります。実に大きな命の流れの中に私という一人はあり、父母もまたその中にあるのです。お念仏のみ教えには、「世間の物差しではかるような小さい私とその父母、先祖」という視点はありません。父母（先祖）のことは安心してずっと阿弥陀さまにお任せしてきたのです。大切なのは、今の私とその恵みの中に生きるよろこびをいただいて迷わず人生を歩んでいるかということです。その一人一人のお念仏のよろこびが伝わっていくことがお念仏の相続であり、そこには間違いなくお念仏の繁昌があるのです。

合掌

奏庵法座

日時
6月26日(木)
午前11時～

「真宗宗歌」

正信偈

法話

ご文章拝読

「恩徳讃」

～*～

おとき

今年も早や上半期が過ぎよう
としています。やらなければ……
と思うことを先延ばしにし、何
か前向きなことを…と思えども
それも出来ず、月日はどんどん
流れていきます。そんな焦る気
持ちがフツと軽くなるのは、
無理強いしない仏の慈愛、気づ
かぬうちに救われていることに
気づかされる瞬間ではないでしょ
うか。

梅雨の法座です。どうぞ足元
にお気をつけてお参り下さい。

お盆のお参り

全国から移り住まれた方
が集まるこの首都圏では、
持ち込まれた宗教習慣も色々
で、お盆も、旧暦で勤める
方、新暦で勤める方、故郷
へ帰って勤める方もおられ
ます。従って龍溪寺奏庵で
は、7月のお盆のお参りも
いたします。お参りのご依
頼は早いめにお寺までお願
いいたします。

別れ



庵を開いた次の年、どこか
らともなく迷い込んできた小
さな真っ白のふわふわの高価
そうな猫。ご近所にお尋ねし
ても飼い主はわからず、天か
ら舞い降りた魔女”サマンサ”
と名付けました。美しく穏や
かで賢いこの子は、元々ここ
は自分の城であなたたちを住
まわせてやっているのよとで
も言うかのごとく、お参りさ
れる方々みんなを把握してい
るかのようでした。

本日、6月20日午後、奏
庵のマスコットとして17年
のいのちを全うしました。

”ありがとう サマンサ”

ご法座前の「正信偈を学
ぶ」を10時頃から開いて
います。お時間が許す方
には少し早くお出かけ下さ
ってご参加下さいますよう
お待ちしております。(廣松)

認知症の症状の一つ徘徊が、介護する家族はもとより社会にとっても大きな問題になっている。年間一万人以上の方が保護されているといい、行方不明の2割強が見つからないままという報告もされている。■先日、一番上の亡き姉夫婦の3回忌と7回忌の法事で集った兄弟親族も、ある者は認知症に、ある者は心を病み、ある者は重い病気を抱えていて、共に育った楽しかった日々は思いの中だけになっていた。親族はり代替わりし、顔ぶれも新しい現実を噛みしめていたところにこの報道だったが、何より老いていく親に戸惑い、時には翻弄させられる子供たちの苦悩を知って、すぐそこに迫っている我が身がダブる。■「親孝行したい時には親はなし」が「孝行をしなくても親がいる……」になって一世代以上も経っているが、未だ「人生50年」時代の家族の価値観の縛りが家族による虐待や殺人までに及ぶ原因のひとつになっているのだろう。加えての少子化と非婚は、以前にはあった親と子の関係の締め切りを曖昧にしズルズルさせてしまっているのだ。■どんな親子関係であっても必ず老いていく。介護が人間にしかない営み、文明の進化の証だとすれば、それは人間の証明であり、社会の品格をも現すものではないだろうか。我々は「人生百年丸」という船で航海をはじめた最初の乗組員だが、かって、その三途の川の渡り方を知っていて、軽く渡っていったように、今では揚子江かアマゾンのように大河となったその川をも、明るく楽しく渡って見せたいものだ。長生きが時として辛く残酷なものであっても、のちの社会によりよく働くものにしていかなければ生きた甲斐がない。■サッカーワールドカップが開かれているブラジルの人達は、生活は苦しくとも明るく楽しく生きる民族であることが誇りであり、それは信仰の力が大きいという。自分自身が幸せであろうとし、そこで介護する側もされる側も幸せであるとするにはもちろん環境や家族も必要だろう。しかし、それが整っていても幸せでない人はいっぱいいる。そ～れ～も古い♪あれも古い♪たぶん古い♪きつと古い♪なのだ。少なからず誰もが通る道だ。カッコつけず、恐れず、思い切って渡ろう。 Norimaru

